

【2】行動分析および【3】支援例

平成 年 月 日 ()

年 組 番 氏名

③	書くことが苦手な場合
行動分析	1 文字を正確にとらえたり、記憶したりすることが苦手である
	2 丁寧に文字を書く、構成にこだわり書き写すなどノートを取ることに時間がかかる
	3 順序立てて物事を考えることが難しい
	4 書く内容をイメージすることができない、文章の表現の仕方が分からない



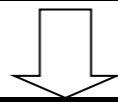
支援例	ア 授業のノートなどは、プリント、ワークシートに書き込むなど、簡易化したものにする
	イ ワードプロなどを活用し、文字を書くということを減らす
	ウ 作文など、他の人の書いた文章をたくさん読ませて、パターンを学ばせる
	エ 作文を書く場合は事前に何について書くか知らせておく
	オ 写真など作文を書くときの手掛りを用意する
	カ 自分の考えや思いを日記に書くことを勧め、教師が時々読んで添削をしたり感想を伝えたりする
	キ 新聞の記事など自分の興味あるものを切り抜き、それに感想を書くことを勧め、それを教師が添削する
	ク 漢字を学習する時は文字の成り立ちやつくりを説明する
	ケ 情報機器(デジカメ等)の活用をする
	コ 教師が板書計画を立て、プリントにする

④	読むことが苦手な場合
行動分析	1 ことばや単文レベルでの意味の理解が難しい(年齢相応の語彙力がない)
	2 部分と部分(または全体)との関係を理解することが難しい
	3 書かれている内容について推測することや意図を推し量ることが難しい
	4 それまで読んできた内容をストックしておきながら読み進めることが難しい
	5 文字がゆがんで見えるなど視覚的な課題がある



支援例	ア 文章を絵にしたり、段落関係を図式化することで、読解の援助をする
	イ あらかじめ意味の分からない語句などを想定して意味が分かるようにしておく
	ウ 生徒から本や文章の粗筋を聞きながら、個別に内容について話し合う機会をつくる
	エ 文章のキーワードを教師が指摘して、○で囲ませたり、チェックを入れさせたりする
	オ 選択肢で読解のヒントを与えたり、主題を選ばせたりする
	カ 行間を空ける、文字を大きくする
キ 書かれている内容を簡潔にまとめる	

⑤	計算が苦手な場合
行動分析	1 数の概念を理解していない
	2 言語理解力の不足、記憶力が弱い
	3 視覚認知(空間的な位置関係を把握すること)が弱い
	4 抽象的に考えることが難しい



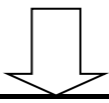
支援例	ア 計算のどの段階でつまづいているか個別に確認する
	イ 繰り上がった数や繰り下がった数など、計算途中の数をメモする場所を決めておく
	ウ 計算方法をカードなどに作成し、マニュアル化する
	オ マス目や枠がある用紙を使用し、位取りをしやすくする
	エ 文章題では文章の意味が分からないのか、それに基づいた計算の仕方が分からないのか等、個別に確認する

⑥	推論することが苦手な場合
行動分析	1 記憶力が弱い
	2 抽象的に考えることが難しい
	3 論理的に考えることが苦手である
	4 イメージをして、推測することが苦手である
	5 順序立てて物事を考えるのが苦手である



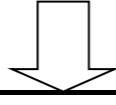
支援例	ア どの段階でつまづいているか個別に確認する
	イ さまざまな例を示すことで、論理化や抽象化のパターンを示し、それを利用して考えるように教材を工夫する
	ウ 考えや取り組むことを書き出すことで視覚化させ、それをもとに優先順位や重要さの順に並べさせる
	エ 要点やポイントになる言葉に印を付ける
オ ポイントになることを絵や図に書いて、視覚的に示す	

⑩	人間関係がうまくつけれない場合
行動分析	1 言葉の背景の意味が分からないため、何を言われているか分からず、冗談が通じない
	2 相手の表情や態度を読み取ることが難しいため、相手の感情や立場を理解できない
	3 相手の立場に立って考えることが難しいため周りの人が困惑するようなことを言ってしまう
	4 ルールが理解できず、曖昧な状況だと何をするか分からず、自分勝手にやってしまう
	5 コミュニケーションが双方向であることが理解できず、一方的に話をする
	6 内容が分からないときに質問することができない、もしくは聞き方が分からない
	7 自分の主張を通そうとするため共感性に乏しい
	8 感情のコントロールができず、カッとなったり意欲を失ったりする
	9 マイペースで人に合わせるのが苦手である
	10 失敗体験が多く、自尊感情が乏しく自信がもてない



支援例	ア 分からないことや聞きたいことがあった時には教師や友達に気軽に聞けるようなクラスの雰囲気づくりをする
	イ ちよつとしたことで自信を失いかちなので、失敗や間違いをあからさまに指摘せず、成切に導くよう見守る
	ウ 否定的な言動について過敏なので、できるだけ長所を見つけて伝える
	エ その生徒の特徴を理解している生徒をグループに入れる
	オ グループ内での役割分担をはっきりとさせ、その生徒に役割や仕事を理解させ、できたら褒める
	カ グループや集団の活動は、本人の気持ちを大切にしながら、本人なりのやり方で参加させ、しつこい働き掛けは避ける
	キ 相手を傷つけるような言動があったときは後で教師が話を聞き、相手の気持ちを考える機会をつくる
	ク 比喻やたとえを使う場合は分かりやすい言葉で補足する
	ケ 定期的に教師が生徒と個別に話をする機会をもち、気持ちを受け入れながらよりよい関係づくりについて考える
	コ 以下のコミュニケーションスキルの練習を、教師やカウンセラーの指導の下に行う
	a 笑顔で接する b 自己主張を抑え、聞き役になる c 上手に相づちをうつ
	d 相手の長所をみつけて褒め上手になる e 相手からの依頼を上手に断る練習をする
	f 場面に応じた聞き方を具体的に教える
	g 相手の話を聞いて自分の要望も言うなど、自分のニーズと相手のニーズとのバランスをとる方法を練習する
	サ 生徒の実態を踏まえたルールを設定し、分かりやすく提示する
	シ 自分を客観的にとらえ、相手の立場や気持ちを理解するためにロールプレイを行う
ス 周りの様子を分かりやすく言語化し、前後関係を関連づけながらどうすればよいかを分かりやすく伝える	
セ パニックを起こしたら保健室や相談室など落ち着ける場所で静かに休ませる	
ソ パニックになった時に関わるキーパーソンを決めておく	
タ パニックのきっかけになった出来事を教師と一緒に振り返る機会をもつ	

⑪	こだわりが強い場合
行動分析	1 自分が得意な分野や習慣化した行動に対してこだわりが強い
	2 予定が変更されると活動の見通しがもちにくい
	3 言葉の説明だけでは、理解できない(聴覚活用が苦手)
	4 特定の分野の知識は優れている
	5 思いこみが強い



支援例	ア 生徒がこだわっている行動や物事がどのようなものかよく話を聞いて受容をする
	イ 得意なことを伸ばし役立てることを考える
	ウ こだわりを個性の一つだと理解し、支障のない範囲でうまく合わせて受け入れる
	エ 生徒がやり直しややり残しにこだわっている場合は、その気持ちを受容して、時間と場所が確保できれば それに取り組むことができる機会をもつ
	オ 言葉だけでなく文字やイラストなども使って、予定はなるべく前もって伝える
	カ ルールを守ることにこだわり、他人を許せない場合は、生徒と一緒にその状況を話し合う機会をもつ
	キ 考えの変更を迫るのではなく、周囲の者が別の視点を与えたり気持ちの切り替えをしたりするなどして 他の考えや手段があることを提示する